

令和4年度 ユマニテク調理製菓専門学校

学校関係者評価報告書

学校法人みえ大橋学園 ユマニテク調理製菓専門学校 学校関係者評価委員会は、令和5年2月22日に「令和3年度 学校自己評価表」に基づいて学校関係者評価を実施しましたので、以下の通り報告いたします。

令和5年2月22日

学校法人 みえ大橋学園
ユマニテク調理製菓専門学校
学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価委員（出席者）

○業界関係者

- ・井上 直樹 氏（ル・ミディ オーナーシェフ）〔企業関係者〕
- ・武藤 健一 氏（(株)旅館 寿亭 料理長）〔企業関係者〕
- ・岡本 伸治 氏（夢菓子工房 ことよ 代表取締役社長）〔企業関係者〕
- ・岡 裕貴 氏（岡田屋）〔卒業生〕

以上4名（2名欠席）

後藤 和真 氏（テクノ・マーケティング(株) 呼月）〔卒業生〕 *当日欠席
松田 直也 氏（モリエール）〔卒業生〕 *当日欠席

- ・河内信次 （四日市地区調理師協会 会長）
- ・岡本伸治 （有限会社 夢菓子工房ことよ 代表取締役社長）
- ・後藤和真 （テクノマーケティング株式会社 呼月）総合調理学科卒業生

以上3名（2名欠席）

2. 令和3年度 自己評価

項目	評価・課題・改善
(1) 教育理念・目標	<p>評価：適切。</p> <p>課題：教育理念は募集活動時に発信し、入学後も発信しているため学生、保護者は周知できている。これからも業界ニーズを気にかけて実施していく。</p> <p>改善：特になし</p>
(2) 学校運営	<p>評価：ほぼ適切。</p> <p>課題：前年度の総括も反映し、事業計画を作り、それに基づいた目標を設定し運営しているが、達成できていない点もある。 遠隔授業を実施するためのハード面の整備が不十分である。</p> <p>改善：教職員全員が事業計画をしっかりと認識し、教員組織の役割に沿って確実に実施できるように計画する。 新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う遠隔授業実施に必要なハード面の環境を整える。</p>
(3) 教育活動	<p>評価：ほぼ適切。</p> <p>課題：関連分野の企業、関連施設、団体との連携をさらに充実させながら教員の知識、技術を習得したほうがよい。</p> <p>改善：教員の資質向上や能力開発のために研修をさらに行っていく。</p>
(4) 学修成果	<p>評価：ほぼ適切。</p> <p>課題：退学率が0%ではない。 卒業生の状況把握は一部に限られている。</p> <p>改善：学生指導は細やかに行い、保護者とも連携し、退学者がでないように取り組む。資格取得率向上の対策（対策授業の増加、個人対応）を実施する。。</p>
(5) 学生支援	<p>評価：ほぼ適切。</p> <p>課題：担任、教科担当教員、学科全体による様々な支援を実施しているが、学生の多様化により、一部できていない点もある。 支援体制はあるが、内容によっては教育力が弱い点もある。</p> <p>改善：保護者との連携を強化する。①入学時に学生便覧を配布し、学校の教育方針等を理解してもらう。②入学時に既往症、持病を確認する。③些細な点でも個人によっては状況報告し、現状を共有し、連携してサポートする。また、全教員で全学生を意識して接し、共通の学生指導ができるようにする。教員教育力を向上する。</p>
(6) 教育環境	<p>評価：ほぼ適切。</p> <p>課題：整理整頓、衛生管理等の方法は全教員の共通認識とし、担当者によって状況が変わらないようにする。</p> <p>改善：教員間の報告、連絡、相談を確実にし、情報を共有する。 最終確認者を設け、整備できるようにする。</p>

<p>(7) 学生の受入れ 募集</p>	<p>評価：適切。 課題：懸命の募集活動にも関わらず、少子化、希望者減少により定員数確保が難しい状況である。 改善：広報活動を見直して募集活動に取り組む。</p>
<p>(8) 財務</p>	<p>評価：適切。 課題：特になし。 改善：特になし。</p>
<p>(9) 法令等の遵守</p>	<p>評価：適切。 課題：特になし。 改善：特になし。</p>
<p>(10) 社会貢献・地域貢献</p>	<p>評価：ほぼ適切。 課題：企業からのコラボ企画に対応する教職員の確保と年間授業計画等の調節が必要。 改善：教職員間でコラボ企画の情報共有を徹底し、担当者が責任を持って進められるように計画的に実施する。</p>

3. 令和4年度 学校関係者評価（令和3年度の自己評価についての評価）

項目	評価
(1) 教育理念・目標 「理念・目的・育成人材像は定められているか」	適切である。
(2) 学校運営 「目的等に沿った運営方針が策定されているか」	ほぼ適切である。
(3) 教育活動 「教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか」	ほぼ適切である。 様々な教員研修を通して教員の指導力を 上げることが継続する。
(4) 学修成果 「卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」	ほぼ適切である。 SNS等により学校情報を発信し、卒業生 来校時に現状を把握する。
(5) 学生支援 「学生相談に関する支援体制は整備されているか」	ほぼ適切である。 学生の多様化により個別指導を継続す る。
(6) 教育環境 「施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか」	ほぼ適切である。 施設・設備の点検を定期的に行い、改善 できる点は即対応することを継続し、衛 生面も強化する。
(7) 学生の受け入れ募集 「学生募集活動は適正に行われているか」	適切である。 学生募集活動を通し、業界の活性に寄与 する。
(8) 財務 「財務について会計監査が適正に行われているか」	適切である。
(9) 法令等の遵守 「法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされて いるか」	適切である。 法令等遵守は継続して実施する。
(10) 社会貢献・地域貢献 「学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行 っているか」	ほぼ適切である。 さまざまな行事等を通し、社会貢献・地 域貢献を継続する。

4. 学校関係者評価 総括と課題について

項目	評価・意見
自己評価結果についての全体的な評価・意見等	<p>全体的な評価は「ほぼ適切」だが、今後、課題を解決し、改善に努めていただきたい。また業界のニーズに対応する人材育成に向けて、教育課程編成委員会で議論し、学校教育に反映していただきたい。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症の影響はあるが、対面授業は人材育成に有効であるため、今後も対策しながら学ぶ場の提供を継続できるようにするとよい。</p> <p>現場はコロナの影響を受けているが、今後、以前のような状況に戻った時にお客様にきちんと対応できるようにするためには学校での教育は大きな意味があるため、実践授業を通して、厳しさだけでなく、やりがいや楽しさも実感してもらいたい。</p>